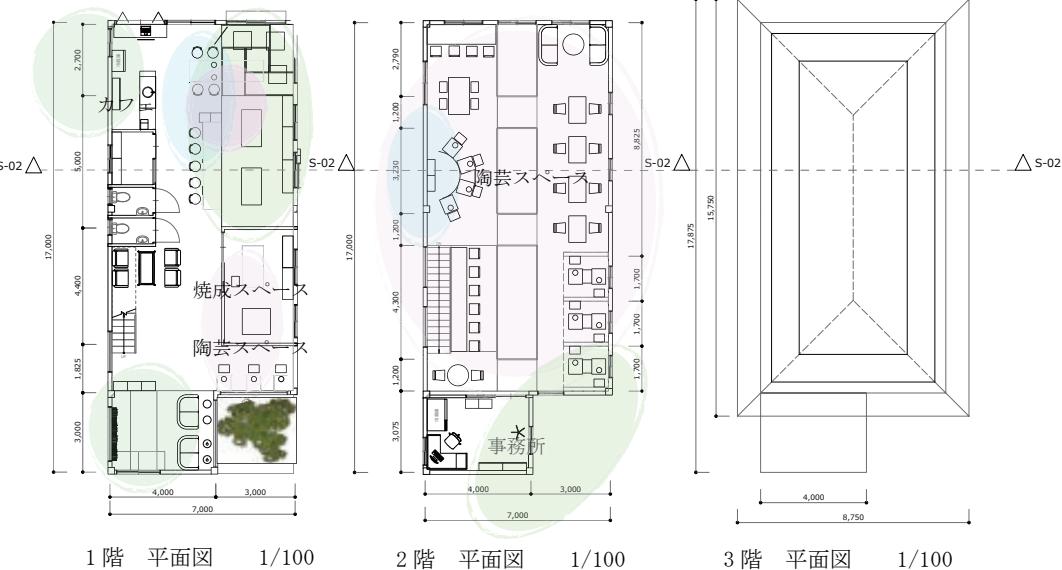


Site - A . 交わり工房 -高齢者と観光客が交差する工房-

高齢者と観光客は、本来生活リズムや目的が異なり、同じ商店街にいても接点を持ちにくい存在である。本計画では、その両者が自然に同じ時間と空間を共有できる場として、広場機能をもつ交流の場を計画した。高齢者にとっては、日常的に立ち寄れる居場所であり、観光客にとっては、街の情報を得て一息つける入口となる。休憩・待ち合わせ・情報取得といった行為が重なることで、視線の交差や軽い会話が生まれ、互いを「見る存在」から「同じ場を使う存在」へと関係が変化していく。

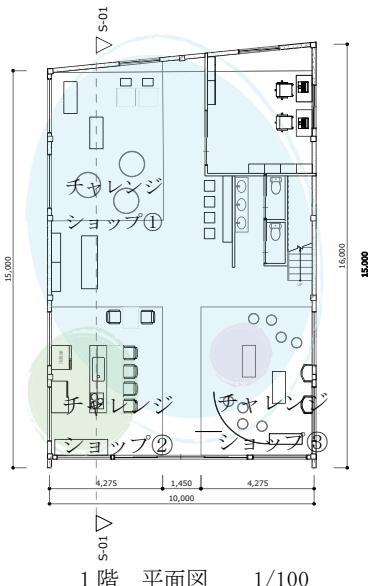


Site - B . チャレンジショップとレコード -日常にひらく、まちの小さな複合拠点-

本建物は、「働く・くつろぐ・暮らす」という異なる機能を縦方向に重ねることで、商店街との関わり方を多層的に広げる構成としている。

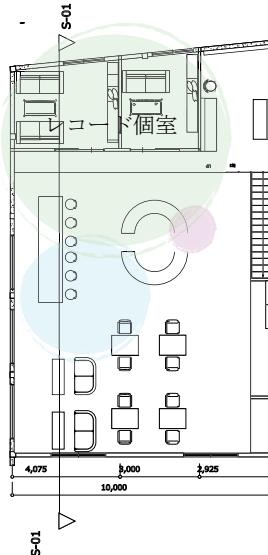
1階のチャレンジショップ

新規出店者が挑戦しやすい場として位置づけ、来訪のたびに店舗が変化することで、何度訪れても新しい発見のある商店街の入口となる。



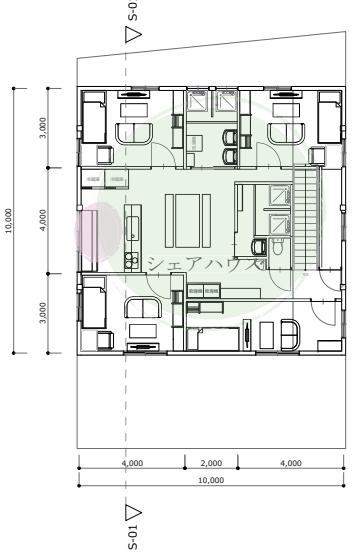
2階のレコードショップ

音楽を通じて世代を越えた共通体験を生み出す場であり、買い物だけでなく「滞在すること」を目的とした空間として、商店街にゆっくりとした時間をもたらす。



3階のシェアハウス

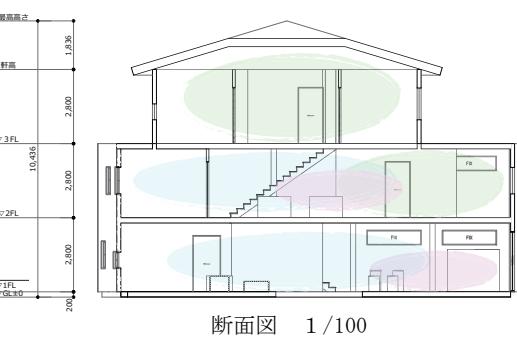
テナントで働く人が住みながら働く。店の担い手が日常的に商店街で生活することで、「街の一員」としての関係が生まれ、定住・移住のきっかけにもつながる。



陶器

観光

暮らし



断面図 1/100

瀬戸焼と人との交差が生まれる商店街

一暮らしと旅が交差する2つの商店街を結ぶ5つの居場所



A22AB114 福岡里彩子

01. 背景

瀬戸焼は約1000年以上の歴史をもつ、日本を代表する陶磁器産地である。しかし近年、洋食器の普及や100円ショップなどの低価格帯食器への需要の変化により、瀬戸焼を扱う店舗の減少や後継者不足が深刻化している。

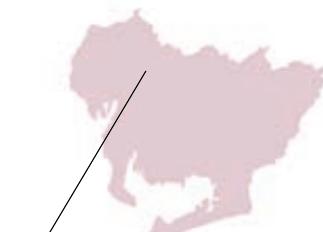
また、瀬戸焼が発展した尾張瀬戸駅近郊に位置する「せと末広町商店街」と「せと銀座通り商店街」は、明治20年頃から続く長い歴史をもつ商店街であるが、現在では約半数がシャッターを下ろし、活気を失いつつある。

<瀬戸市の課題>

- ・人口減少と高齢化の進行
- ・瀬戸焼の店舗減少と後継者不足

<商店街の課題>

- ・担い手・人手不足などによる空き店舗増加
- ・店舗の老朽化
- ・人の集客や活気のなさ



愛知県瀬戸市

02. 目的

本計画では、地域住民や訪問者が瀬戸焼に触れる機会を創出することで、新たな後継者の発掘・育成につなげるとともに、商店街の再編・活用を通して新たな人の流れを生み出し、瀬戸市に再び活気をもたらすことを目的とする。

03. 方法

①資料・現地調査



②事例調査



③アンケート調査

①資料・現地調査

瀬戸市や各商店街のホームページ、行政資料などから、商店街の歴史・現状・立地条件を確認する。また「せと末広町商店街」と「せと銀座通り商店街」における空き店舗の居住の有無や周辺環境を現地で観察し、道の状態を把握する。

②事例調査

「円頓寺商店街」や「日南市油津商店街」など、商店街活性化に成功した全国の事例を参照し、空間の活用方法を整理・考察する。

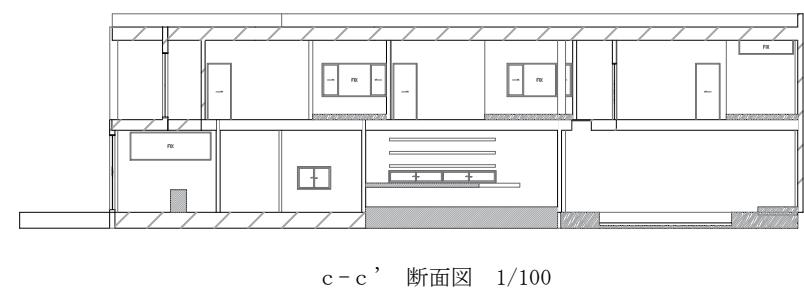
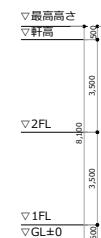
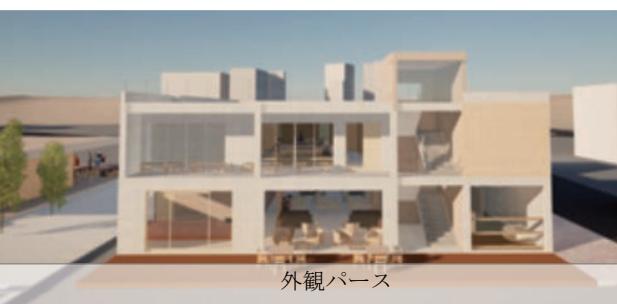
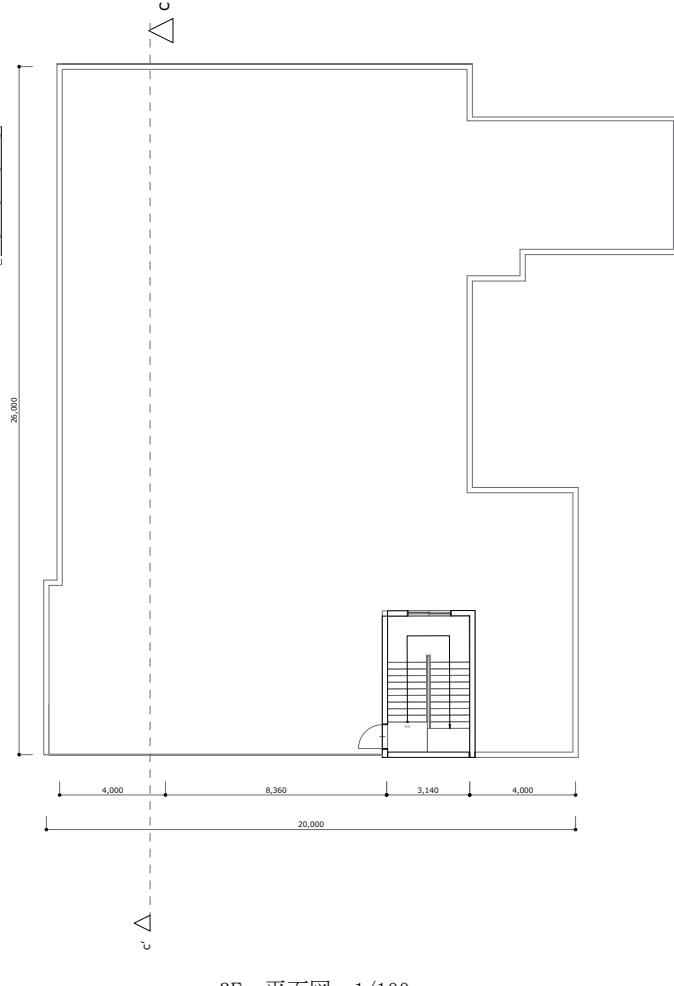
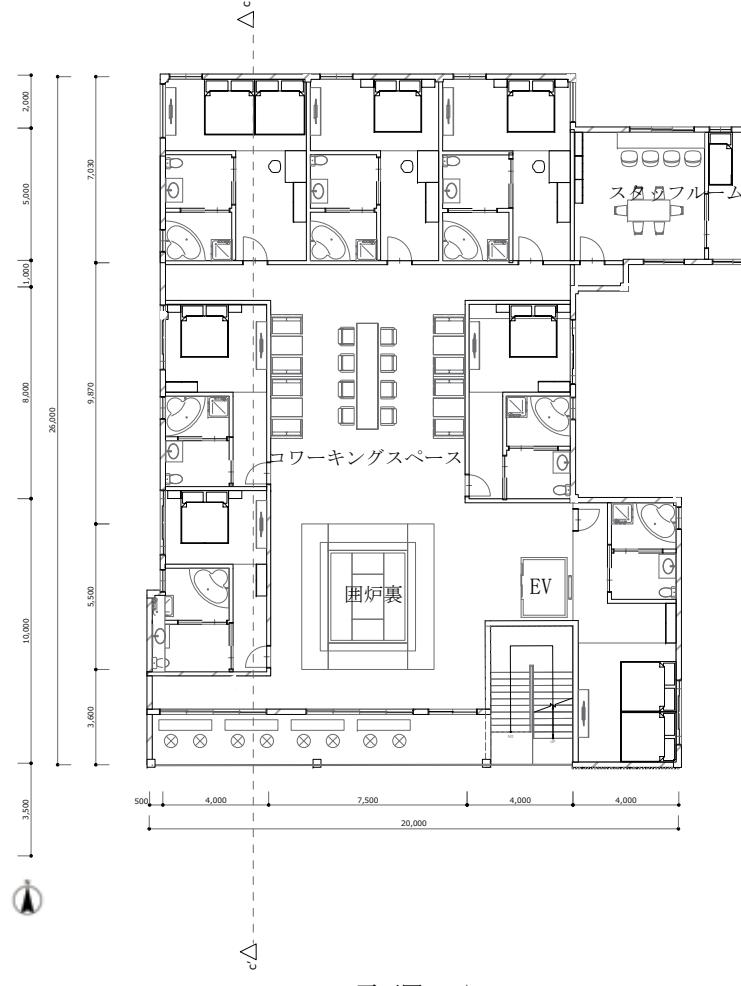
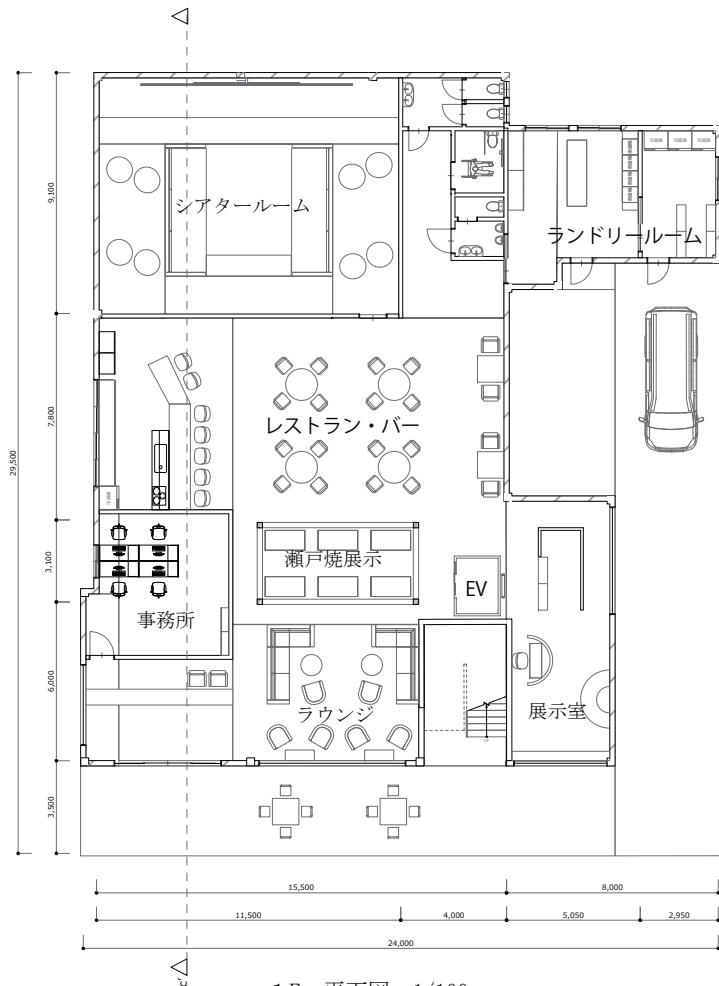
③アンケート調査

「せと末広町商店街」と「せと銀座通り商店街」の2つの商店街の加盟店と来訪者を対象に、現状と課題、今後の要望を把握するため、アンケート調査を行った。



瀬戸蔵宿は、元劇場だった空き店舗を“宿”として再編集し、瀬戸の魅力を滞在の中で深く体験できる拠点として計画する。

1階にはミニシアターとミニステージを設け、上映やイベントを通して観光客だけでなく地元の人や海外の人も自然に集まる構成。飲食スペースには瀬戸焼の展示室を組み込み、作品を眺め器を使いながら食事ができ、夜はバーへ切り替わり瀬戸焼を楽しみながら会話が生まれ、観光客と地元の交流が育つ。2階は客室とコワーキングとしまちに“泊まる”“働く”を両立する滞在。



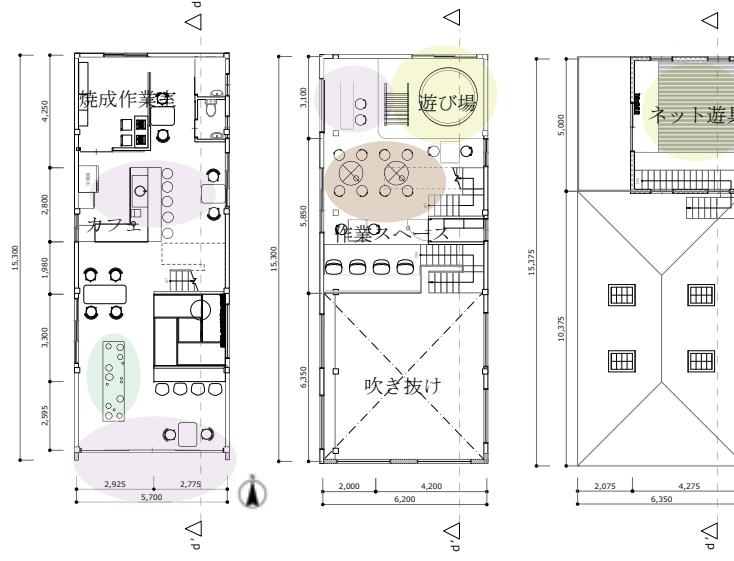
Site - D . つちいろ工房 -子どもが創造性を育む陶の体験工房-

メインターゲット：親子・観光客

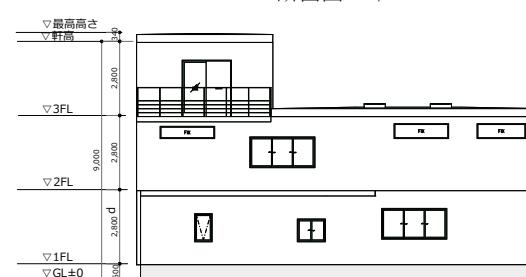
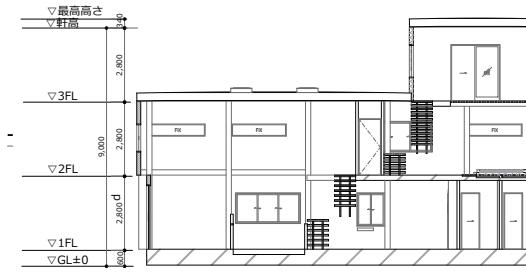
周辺情報：瀬戸内広町商店街の半径 1.5km 圏内には、保育園・幼稚園・小学校が計 6 件以上存在し、さらに小学校が 3 件立地している。

また商店街周辺には学習塾が多く、子どもの放課後動線と親の送迎動線が重なるエリア特性を有している。

こうした状況に対し、子どもが安全に過ごせる居場所や、子育てがしやすい環境をまちの中に形成することで、地域に根ざした子育て世代の暮らしを支え、若い世代の定住・流入を促すことが期待される。さらに瀬戸焼に触れる体験や学びの場を通じて、子どもたちが地域の文化を身近に知り、将来の担い手となる可能性を育てることは、産地としての持続性にも寄与する。



陶器の色塗りに加えて土遊びなどの土に触れる体験を提供することで、創造性や観察力の育成、手先の発達、素材や文化への理解といった多面的な価値が期待でき、商店街における新たな教育的・文化的機能となり得る。



子供・観光客をターゲットとする絵付け体験や学び・遊び・創造の場

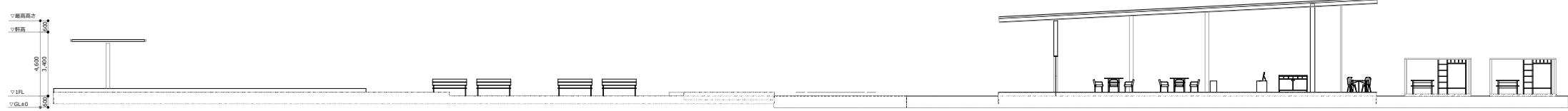
学生や観光客をターゲットとするカフェスペース



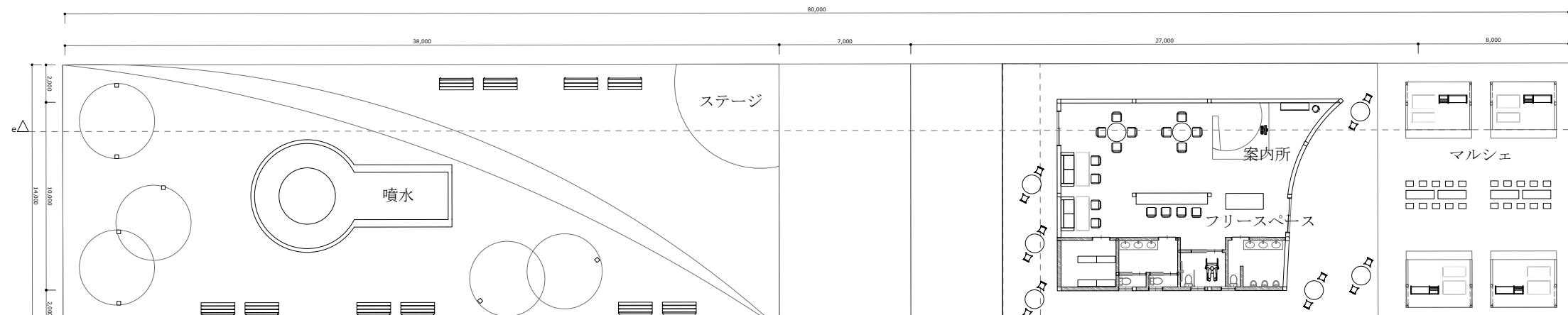
Site - E . 日常と非日常を結ぶ広場

この広場は、5つの場所を単に「つなぐ通路」ではなく、人と人、行為と行為が重なり合うことで、商店街全体の回遊性と滞在性を高める商店街の核となる交流空間として計画している。

広場には案内機能とフリースペースを併設し、商店街の情報を得る人と、休憩や待ち合わせを目的とする人が、同じ空間を共有する。これにより、偶発的な視線の交差や会話のきっかけが生まれる。



広場 断面図 1/100



広場 平面図 1/100



テラスのステージで、演奏を聴く人々



野外ステージや芝生でくつろぐ



マルシェのないときは、フリースペースとして活用する



マルシェ：世代を超えた交流

3-2. アンケート調査

対象：銀座通り商店街・末広商店街の店舗の方と訪問者

実施日：6月 28・29日（土曜日・日曜日）

方法：GooglefoamでQRコードを読み取りや

アンケート用紙を配布した。

商店街加盟店の回答数：33回答 回答率：47%

来訪者の回答数：59回答



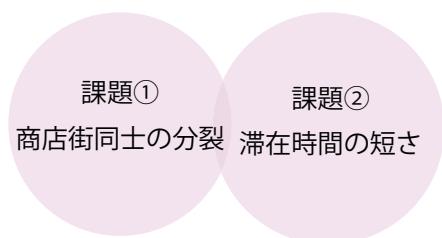
・商店街加盟店：両商店街の関わりや連携についての質問

「距離は近いが、連携が少ないと感じる」などの回答が大多数であり、両商店街が互いに閉鎖的に存在している。

・来訪者では、商店街の滞在時間について質問

「30分未満」が7件、「30分～1時間」11件「1～2時間」が19件であり、短時間の利用が中心であることが分かった。一方で、2時間以上滞在する人は少数であり、長く滞在できる居場所や目的が不足していると考えられる。

3-3. 現状の課題と要望を活かした設計



2つの商店街を自然につなぐ空間構成と滞在時間を伸ばす設計に取り組む。4つの空き店舗に、製作・学び・滞在などといった目的をもって過ごせる場所を点在させ、商店街内での回遊と滞在を促す。そして、両商店街を結ぶ位置にある広場で、店舗内の活動や人の動きが外へと滲み出し、広場を介して人が行き交う構造により、これまで連携の少なかった2つの商店街が自然と行き来できる関係へと転換することを目指す。

4. 敷地

1. せと銀座通り商店街
空き店舗 2 店舗



2. せと末広町商店街
空き店舗 2 店舗

3. 広場

5. コンセプトと提案

瀬戸焼と人の“交差”が生まれる商店街

一暮らしと旅が交差する2つの商店街を結ぶ5つの居場所—

サブコンセプト：SETO カブル

SETO カブルとは、瀬戸十ウォーカブル(walkable)の造語である。

【持続可能な体験と伝統を守り、新たな安らぎの場となる商店街】



Sustainable



Experience



Traditional



Oasis



空き店舗を活用し、廃棄される陶器材料を建材として再利用することで、瀬戸のまちにサスティナブルな価値を生み出す。

店舗の「専門性」→体験が明確化されている

1. 陶器体験（ろくろ形成）
2. 陶器体験（絵付け体験）
3. チャレンジショップ・レコード（聴く・安らぎ）
4. 宿・劇場・レストラン（泊まる・観る・聴く・食べる）

土遊び



絵付け



陶器



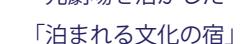
ろくろ



観光



暮らし



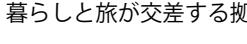
仕事



宿泊



子育て



食事



Site - A

高齢者と観光客が
交差する工房



高齢者の「日常」と観光客の
「非日常」の交差→”継承と交流”

Site - B

日常とにひらく、
小さな複合施設



フロアごとに違う機能・交わり
でいつ来ても楽しめる

Site - C

元劇場を活かした
「泊まれる文化の宿」



暮らしと旅が交差する拠点
でいつ来ても楽しめる

Site - D

遊びと学びが交差する工房



子育て世代を支え、若い世代の
定住・流入を促す・創造性を育む

Site - E

人・もの・言葉が交差する広場



循環する人と世代との交流地点